

## ベビーユニバースの開発成功事例その4：



\*画像はイメージ

### 数百商品×13ヶ国語分の箱を作り続けるトップ玩具メーカー

老若男女、誰でも一度はお世話になったであろう老舗トップ玩具メーカーから最初の依頼があったのは5年前だった。

(写真はイメージで実際の商品とは全く異なる)

ご依頼は、このメーカーを支える基幹ブランドの箱の省力化だった。

この基幹ブランドは有名なので、もちろん知ってはいたが、まさかここまでの商品数とは！

国内向けだけでも数百はあり、これを全世界に向けて13か国版で対応しているという。

さらに実態を知って驚いた、国によって商品が微妙に違うのだ。

この気が遠くなる作業を今までどうやってこなしていたのか？

それは後に行ったヒヤリングで、煩雑な作業フローとお疲れのお顔から激務の実態を知ることになる。

そして、この基幹ブランドの実質的なトップである取締役から直接開発目的をいただいた。

- ・作業を半減できること、かつ、頻繁におきるミス（印刷事故）を無くすこと。

まず我々が行なったのは、煩雑な作業フローの把握とその改善提案であった。

(守秘義務があるので、詳細は避けるが、)

我々の提案を簡単に説明するなら、

- ・精査した情報を読み込む機能
- ・箱の製図と印刷データをシームレスに自動生成する機能

だった。

提案が一度ですんなり通ったわけではないが、それでも常務からGOが出た！

箱に関する開発経験は十分にあったので技術的な問題は無かったが、開発で一番苦勞したのは、世界仕様が複雑だったことと最終的には数千に及ぶ箱のテンプレート化が大変だった。

先日、その常務からお送りしたお中元の礼状が届いた。お決まりの文章の最後に「便利に活用させていただいている。」と書き添えられていた。

開発会社冥利に尽きる、ありがたい一言だった。(涙)